

2025年3月期（129期） 第1四半期決算説明資料

2024年8月2日

グンゼ株式会社

東証プライム（コード番号：3002）

ご説明の流れ

I. 2025年3月期 第1四半期決算概要

II. 事業セグメント別の概況

III. 2025年3月期連結業績見通し

I. 2025年3月期

第1四半期決算概要

I-1. 2025年3月期第1四半期決算 業績

連結業績

(単位：百万円)

	2025年3月期 第1四半期 (下段:利益率)	2024年3月期 第1四半期 (下段:利益率)	対前期	
			増減額	増減率(%)
売上高	33,382	31,706	1,676	5.3
営業利益	2,083 6.2%	1,515 4.8%	568	37.5
経常利益	2,272 6.8%	1,640 5.2%	631	38.5
親会社株主に帰属する 四半期純利益	1,600 4.8%	1,586 5.0%	14	0.9

(主な特別損益)

(前期) 有価証券売却益 657

(今期) 有価証券売却益 144

I -2. 2025年3月期第1四半期決算 業績

連結業績

(単位：百万円)

	2025年3月期 第1四半期	2024年3月期	増減額
総資産	165,028	161,971	3,057
自己資本	118,665	118,642	23
自己資本比率	71.9%	73.2%	△1.3%
有利子負債	12,998	9,004	3,994
BPS 1株当たり純資産(円)	7,114.32	7,112.73	1.59

I-3. 第1四半期決算サマリー

(2024年4月1日～2024年6月30日)

素材関連が回復傾向にある機能ソリューション事業、新製品及び中国向けが拡大したメディカル事業の好調に加え、アパレル事業、スポーツクラブの構造改革により増収増益

事業セグメント業績の主なポイント

機能 ソリューション	<u>増収増益</u> ◆プラスチックフィルムは、米国では需要停滞の影響を受けるも、国内は堅調に推移 ◆エンジニアリングプラスチックは、OA機器向けの市況回復に加えて、半導体向けが堅調に推移
メディカル	<u>増収増益</u> ◆国内は、癒着防止材など新製品の市場浸透が進む ◆組織補強材を中心に、中国向けが伸長
アパレル	<u>微増収増益</u> ◆為替影響を受けるも、事業構造改革効果などにより増益 ◆アパレル事業全体では、年間商品が停滞し、シーズン商品がカバーするも売上は微増 ◆E C・直営店のD t o Cルートが引き続き堅調に推移
ライフ クリエイト	<u>減収減益</u> ◆不動産関連は、前期遊休地再開発プロジェクト売上影響やショッピングセンターの償却負担影響を受け減収 ◆スポーツクラブ分野は、不採算店舗の見直しにより売上は減少も、損益は改善

I-4. セグメント別業績

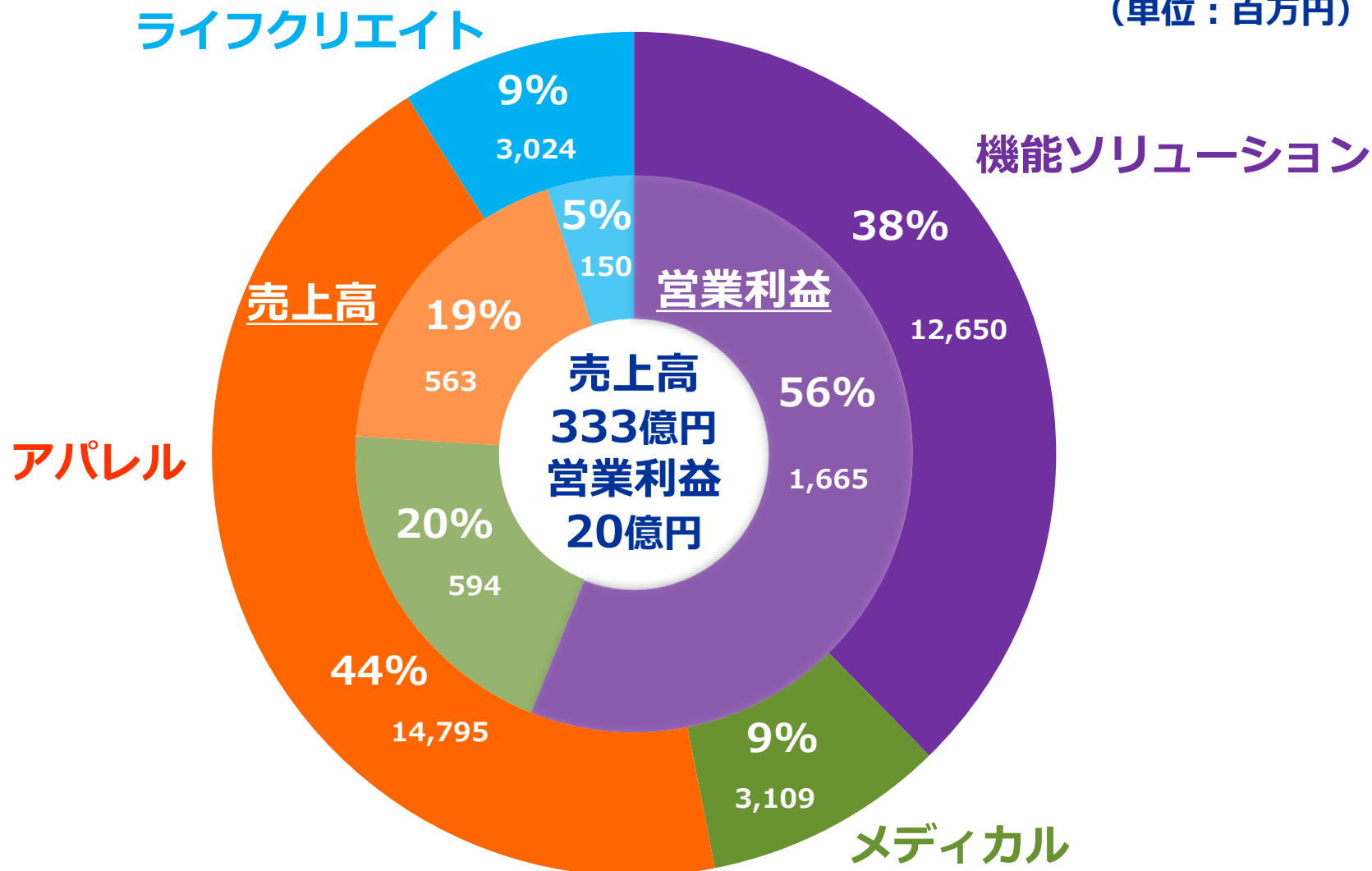
連結業績

(単位：百万円)

	売上高			営業利益（下段：利益率）		
	2025年 3月期 第1四半期	2024年 3月期 第1四半期	対前期 増減	2025年 3月期 第1四半期	2024年 3月期 第1四半期	対前期 増減
機能 ソリューション	12,650	11,326	11.7% 1,323	1,665 13.2%	1,423 12.6%	17.0% 242
メディカル	3,109	2,420	28.5% 689	594 19.1%	463 19.1%	28.2% 130
アパレル	14,795	14,583	1.5% 211	563 3.8%	343 2.4%	64.0% 219
ライフ クリエイト	3,024	3,557	△15.0% △532	150 5.0%	172 4.8%	△13.0% △22
合計	33,382	31,706	5.3% 1,676	2,083 6.2%	1,515 4.8%	37.5% 568

I -5. セグメント別構成比

(単位：百万円)



総額は、セグメント利益に含まない全社費用を含む

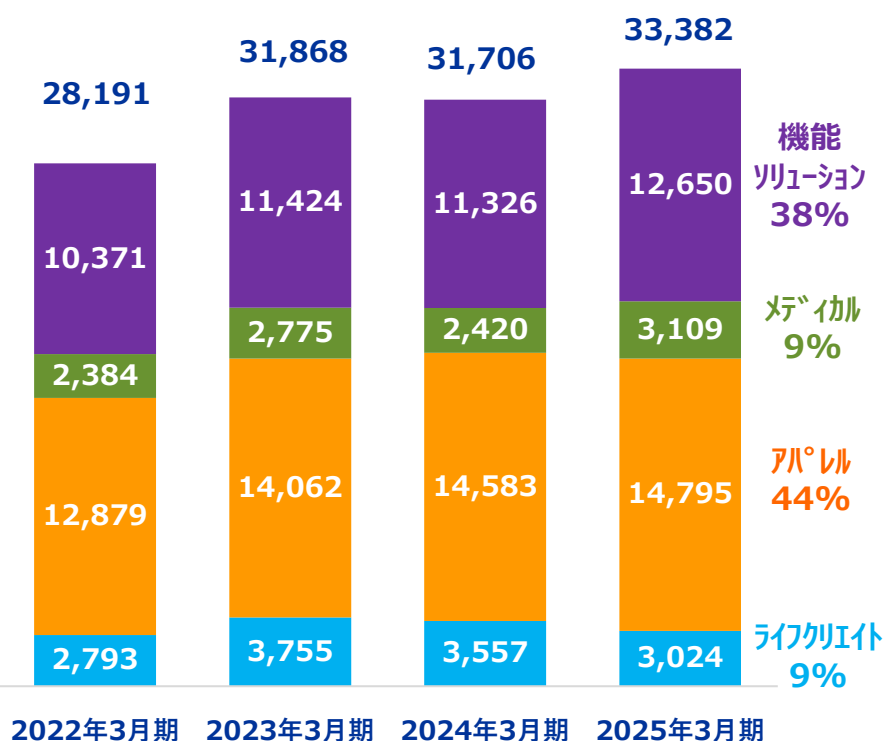
I -6. 2025年3月期第1四半期決算 売上高&営業利益

売上高 **33,382**百万円 前年同期比 +5.3%

(単位：百万円)

営業利益 **2,083**百万円 前年同期比+37.5%

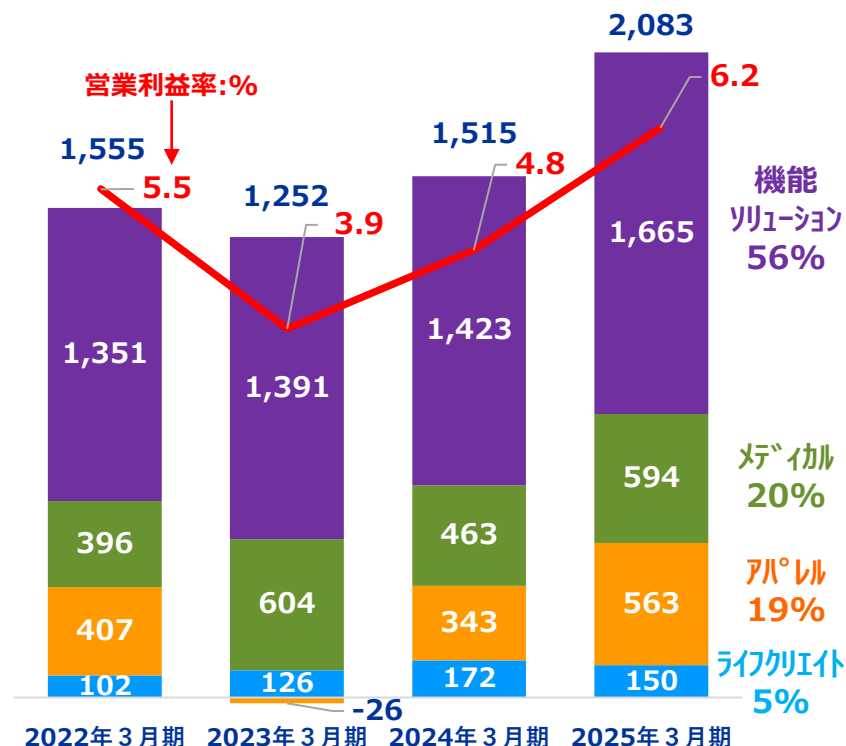
<事業セグメント売上高推移>



機能ソリューション、メディカルが継続伸長

< 事業セグメント営業利益推移>

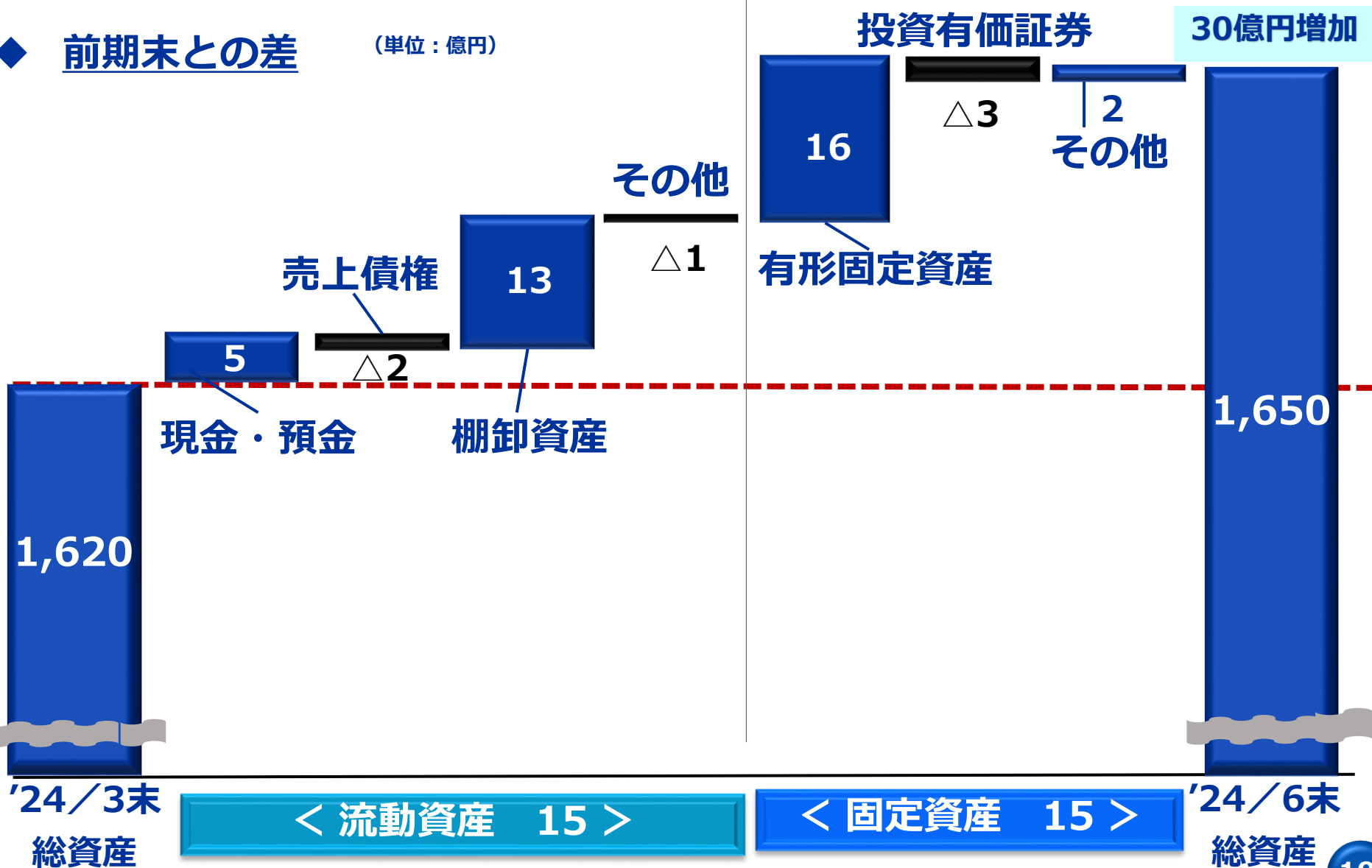
総額は、セグメント利益に含まない全社費用を含む



機能ソリューション、メディカルの伸長に加え
アパレルの構造改革効果などにより増益基調

I-7. 資産の増減内容

◆ 前期末との差 (単位：億円)



Ⅱ. 事業セグメント別の概況

Ⅱ-1. 2025年3月期第1四半期事業概況

◆ 機能ソリューション事業 1

事業の
方向性

収益拡大

■ プラスチック

消費低迷による在庫過多も一巡し、需要回復傾向。
サーキュラーファクトリー（資源循環型工場）の
本格稼働と、リサイクルセンター設置を進める

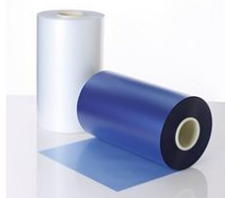
◆ 製品群	製品内容	概況
平板収縮	・PETとPSの積層構造のハイブリッドフィルムは収縮性に優れており美麗性が特徴 ・オレフィンラベルは、比重分離し易くリサイクルが容易	・飲料分野は、猛暑やインバウンド需要を受け堅調に推移 ・薄膜・軽量フィルム「ジオプラス」が飲料向けに新たに採用される
ナイロン	・ガスバリア性や耐ピンホール（穴が開き難い）特性を持つ	・国内は、猛暑が続き、冷蔵食品向けが好調 ・輸出は、在庫調整が進みバルーン向けなどの受注が回復
工業用品	・半導体製造用、EV電池用等の工業材料や壁紙に使用	・PC、スマホ市場の回復が進み、半導体向けが好調
OPP	・防曇フィルムを中心に差異化を訴求	・もやし・カット野菜等、袋物野菜向けが好調
グローバル	・米国、中国、ベトナムの3拠点で平板収縮フィルムを生産	・米国：機能性飲料向け受注の一巡に加え、グローバルブランド向け受注も減速 ・ベトナム：競合ローカルメーカーの価格攻勢影響あるも、グローバルブランド向けに機能性訴求し拡販 ・中国：生活用品向けの不振を飲料用途の受注増でカバー



■ シュリンク（平板収縮）



■ ナイロン



■ 工業用品



■ OPP



- 平板収縮
- ナイロン
- 工業用品
- OPP
- グローバル

Ⅱ-2. 2025年3月期第1四半期事業概況

◆ 機能ソリューション事業 2

事業の
方向性

収益拡大

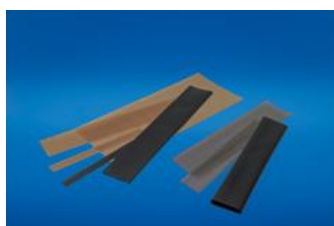
■ エンジニアリングプラスチックス

OA市場向け製品を基盤としながら、
半導体・医療分野など、非OA向け
カテゴリーの強化に努め、事業成長を図る

◆ 製品群	製品内容	概況
OA向け 機能商品	・定着ベルト/ロール用フッ素薄膜チューブ 中間転写ベルトは、グローバルトップシェア	・複合機向けは印刷減により消耗品需要が停滞も、 ハード置き換え需要は堅調 ・プリンター市場は在庫調整が一巡
非OA向け	・産業分野の製造工程で使われる機能部品の 製造・販売	・産業機器向けは好調に推移し、半導体分野は回復傾向



■ シームレスベルト



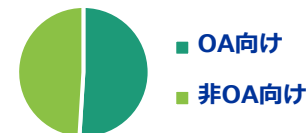
■ フッ素薄肉チューブ



■ 半導体製造用
フィルターサポート材



■ フッ素樹脂チューブ
(引裂き性付与)



■ 電子部品

連結子会社の株式及び日本と米国のタッチパネル
事業の商権を2024年10月に譲渡予定

◆ 製品群	商品内容	概況
タッチパネル	・ 静電容量タッチパネルの組立・販売	・ 産業機器分野で中国経済の停滞影響を受ける

Ⅱ-3. 2025年3月期第1四半期事業概況

◆ メディカル事業

事業の
方向性

成長拡大

■ メディカル

革新的な“バイオマテリアル × デバイス”の提供を目指す。
自社製品海外売上比率・国内自社製品比率・
国内新製品売上比率の拡大を推進

◆ 製品群

製品内容

概況

組織補強材

- ・手術中における縫合部の補強や空気漏れ防止に適応
- ・生体組織再生の足場材料として有効

- ・日本：競合他社が新製品を展開も、影響は軽微
- ・中国：販売代理店との連携強化及び施設での使用増加が進み、堅調に推移

骨接合材

- ・生体吸収性の骨接合材

- ・日本：新製品投入により市場占有率拡大
- ・中国：高額医療規制による購入調整影響を受ける

人工皮膚

- ・コラーゲン使用の吸収性人工皮膚

- ・中国・米国：新規開拓が進み、伸長

癒着防止材

- ・凹凸形状を付与したフィルム状のゼラチンからなる吸収性癒着防止材 消化器外科中心に新規獲得進む

- ・地域での拡販が進む
- ・競合との競争激化への対応を進め、首都圏販売を強化

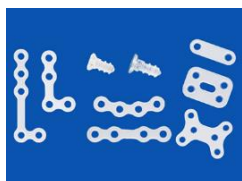
仕入品

- ・美容・形成・創傷領域などの医療機器

- ・ヒト羊膜人工皮膚：難治性潰瘍治療向けで拡大
- ・医療用レーザー：買い替え需要対応等で回復傾向



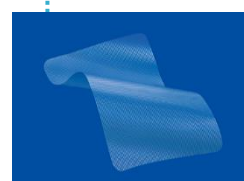
■ 組織補強材



■ 骨接合材



■ 人工皮膚



■ 癒着防止材



■ 国内
■ 海外

Ⅱ-4. 2025年3月期第1四半期事業概況

◆ アパレル事業 1

競争力向上を目的とした業種横断型の組織再編により、総合ブランド戦略を推進、DtoCビジネスシフトに加え顧客ニーズに踏み込んだ商品による新規顧客の獲得を図る。差異化技術の成長を支える生産体制を強化し、自動化への取り組みを拡大する

事業の
方向性

収益拡大

インナーウェア分野

● 引き続きEC、直営店が好調に推移

メンズ

- ・ アセドロン：夏需要対策ブランドとして、販促を強化し堅調に推移
- ・ YG：Tシャツ専用インナー「in・T」は、ECルート中心に引き続き堅調
- ・ BODYWILD：SPAは堅調も、量販店は苦戦

レディース

- ・ KIREILABO：カップ付差異化シーズンインナー「Fitte」「ゆったり」が伸長
- ・ Tuché：ブラジャー、ショーツは順調も、インナーが量販店中心に苦戦



アセドロン



YG

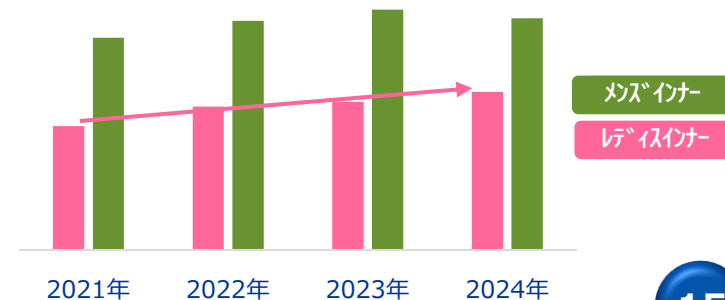


KIREILABO



Tuché

【1Q売上高推移】



Ⅱ-5. 2025年3月期第1四半期事業概況

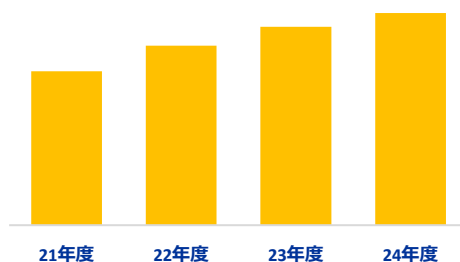
◆ アパレル事業 2

■ レッグウェア分野

● 構造改革を継続し、収益性の改善に取り組む

- ・主力商品「サブリーナ」は、ソックス展開強化によりトータルブランドとして訴求強化
- ・ストッキング：23SS新商品リニューアルの反動影響を受ける
- ・スタイリッシュボトム・レギンス：トレンド変化、ウチナカ需要減により苦戦

【1Q売上高推移】



SABRINA
フットカバー



コラボレギンス
(Ballelite)

Ⅱ-6. 2025年3月期第1四半期事業概況

◆ ライフクリエイイト事業

事業の
方向性

収益改善

■ 不動産関連分野

商業施設の収益力向上の推進や投資効率を重視した物件別管理を強化

● SC事業の現況

- ・つかしん(兵庫県尼崎市)：人流回復やリニューアル効果により来客数は回復傾向

● 不動産賃貸事業の現況

- ・前期の長井市駅前開発プロジェクト(山形県) 売上により減収



つかしん

■ スポーツクラブ分野

スクール事業の拡大、フィットネス事業の差異化に加え、課題店舗への対応強化により、収益の回復を図る

- ・不採算店舗5店舗を閉店（2～6月）し、収益力を高める
- ・スクール事業は会員数拡大を図り、フィットネス事業は24時間型との差異化に注力
- ・学校水泳授業、自治体向け健康支援事業の受託に取り組む



スクール事業

■ 緑化分野

大阪万博等への緑化需要の取り込みとCO2削減に向け固定量増加に積極的に取り組む

- ・樹木販売は、大阪万博等大型案件の納品も始まり、順調に推移



肌着素材で作った土

Ⅲ. 2025年3月期連結業績見通し

Ⅲ-1. 2025年3月期連結業績予想

業績予想

※業績予想修正：無

(単位：百万円)

項 目	2025年 3月期		2024年 3月期		対前年	
	業績予想	利益率	実績	利益率	増減	増減率
売上高	140,000		132,885		7,115	5.4%
営業利益	9,000	6.4%	6,777	5.1%	2,223	32.8%
経常利益	9,000	6.4%	6,774	5.1%	2,226	32.9%
親会社株主に 帰属する 当期純利益	7,500	5.4%	5,109	3.8%	2,391	46.8%

Ⅲ-2. セグメント別業績予想

セグメント別対前期比較

※業績予想修正：無

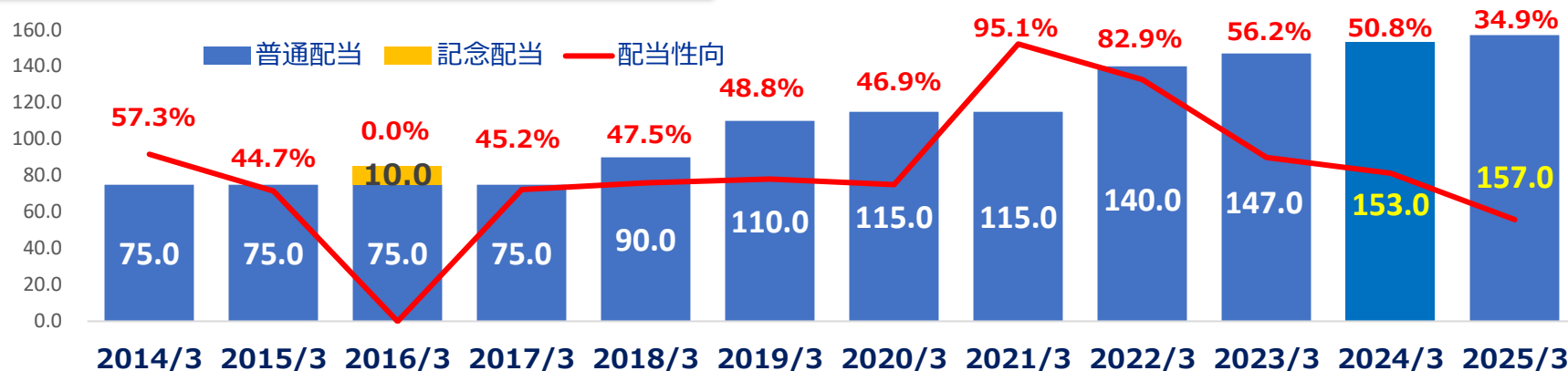
(単位：百万円)

	売 上 高			営業利益（下段：利益率）		
	2025年 3月期 (2024年度)	2024年 3月期 (2023年度)	増減	2025年 3月期 (2024年度)	2024年 3月期 (2023年度)	増減
機能 ソリューション	49,700	48,975	1.5% 725	7,200 14.5%	6,028 12.3%	19.4% 1,172
メディカル	13,000	11,697	11.1% 1,303	2,500 19.2%	1,991 17.0%	25.6% 509
アパレル	65,200	60,114	8.5% 5,086	1,900 2.9%	1,465 2.4%	29.7% 435
ライフ クリエイト	12,900	12,826	0.6% 74	1,100 8.5%	833 6.5%	32.1% 267
合計	140,000	132,885	5.4% 7,115	9,000 6.4%	6,777 5.1%	32.8% 2,223

Ⅲ-3. 株主還元

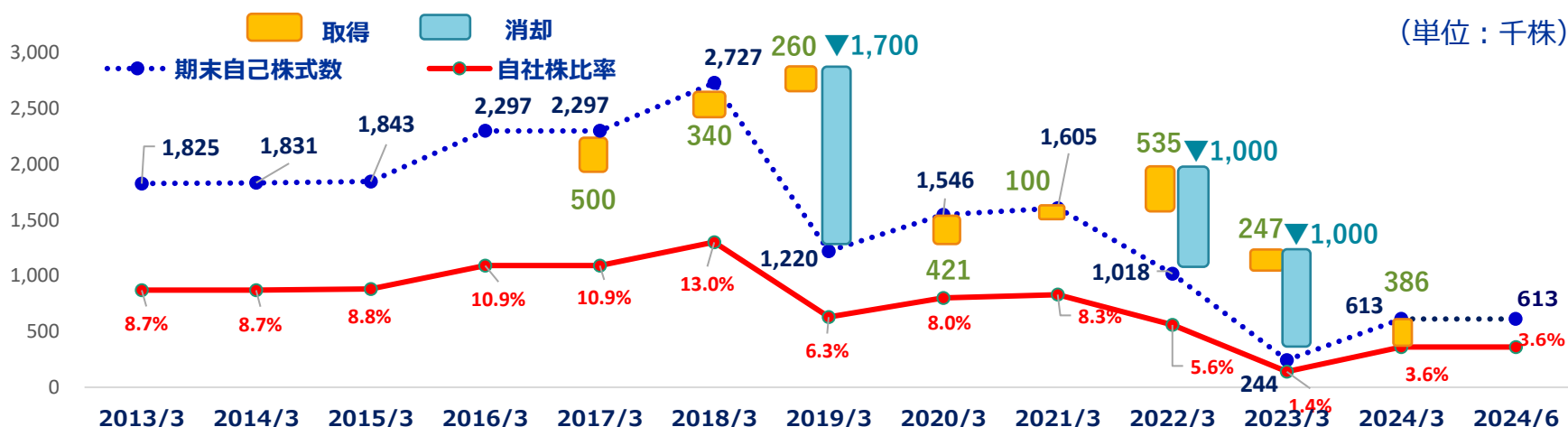
1 株配当金と配当性向の推移

(単位：円)



自社株の状況

* 2017年10月1日からの株式併合(10株を1株) に合せて、2017年3月末以前の株数を換算しております



中期経営計画「VISION 2030 Stage 1」では、
総還元性向100%(ROEが株主資本コストを上回るまで)
株主資本配当率 DOE 2.2%以上を目標に利益還元を行う方針

GUNZE

明日をもっと、ここちよく

本資料のうち、業績見通し等に記載されている内容は、現在入手可能な情報による判断に基づいたものであり、記載された将来の計画数値、施策を保証するものではありません。